



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：為替・金融・貿易関連（4月17日～5月2日）

1. 輸入品の優先順位（4月17日付ケイハーン紙）

鉱工業・商業大臣は、国内産業の育成と雇用維持を目的として、輸入品の優先順位について、現在商品の輸入を禁じているカテゴリ-10（輸入品の優先順位において1～10段階の最下位に相当）に、カテゴリ-9の商品複数を加えることを検討している。

2. 公定レートから非参照レートへの切り替え（4月23日付ジョムフーリーエ・エスラーミー紙）

4月22日、イラン中央銀行は、鉱工業・商業省からの通報を受けたとして、バター・砂糖・肉・家畜に関税を課し、かつ衣料品や医療機器は従来の公定レート（1米ドル=12,260リヤール）から非参照レート（1米ドル=25,000リヤール）へ切り替えるとした通達（4月15日付）を公表した。これにより、公定レートは小麦・大豆・トウモロコシ・大麦の4品目のみ適用されることになる。

3. 港湾使用料に関する海運関係者の発言（4月24日付シャルグ紙）

PMO（イラン港湾機構）が港湾使用料に関し、2月12日に通達を発し、今後は公定レート・ベース（1米ドル=12,260リヤール）と等価のリヤール払いを認めず、hard currency（金または金の裏付けのある貨幣と交換可能な通貨）での支払いを強要していると、イランの海運関係者がシャルグ紙に答えた。

4. 自動車輸入に関する鉱工業・商業省の発言（4月24日イーラーン紙）

鉱工業・商業省関係者は、輸入品リストのうち、2,500ccの完成車を含むカテゴリ-10（輸入品における優先順位最下位）の製品の輸入は引き続き禁止されていると述べ、米国から自動車が輸入されているという情報を完全に否定した。

5. 「統一レート」設定の検討（4月25日付イラン学生通信）

鉱工業・商業省の国内流通担当次長は、現在の公定レート（1米ドル=12,260リヤール）と非参照レート（1米ドル=25,000リヤール）を均等に案分した為替レートである「統一レート」の設定を検討していることを明らかにし、現在の価格であれば1米ドル=18,000リヤール程度となるため、30%程度の物価高騰で落ち着かせることができると述べた。

## 6. 贅沢品への非参照レート適用と関税引き上げ（4月25日付ハムシャフリー紙）

イラン貿易推進機構は、5月20日までに輸入品リストのカテゴリー10（輸入品のうち、主に贅沢品とされるものが該当し現在輸入禁止となっている）に対して、非参照レートを供給する予定であるとしたものの、同時に関税を従来から15%程度引き上げることを検討していると発表した。

## 7. 基礎物資への公定レート適用の否定（4月27日付シャルグ紙）

ラヒーミー第一副大統領は、4品目の基礎物資にのみ公定レート（1米ドル=12,260リヤール）を適用するとしたイラン中央銀行による発表を取り下げ、これは政府による決定ではないと強調した。新たな為替政策がわずか10日で変更されたことになる。

## 8. 贅沢品のLC開設の禁止（4月29日付ハムシャフリー紙）

ガザンファリー鉱工業・商業省大臣は、トルコのイルマズ開発大臣との会談の中で、贅沢品を含むカテゴリー10（輸入品リスト中優先順位が最下位）の商品のLC開設について、引き続き禁止していく考えを示した。

## 9. インフレ率（4月30日付ジョムフーリーイェ・エスラーミー紙）

IMFが発表した188カ国におけるインフレ率について、イランは30.6%を記録し、世界第4位となった。

## 10. 果物輸入の停止（5月1日付ハムシャフリー紙）

農業・開発推進省のアッバースプール商業担当局長は、本年〔ヒジュラ太陽暦1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕開始以降、果物に関する輸入許可を一切出しておらず、本年イランは、果物の輸入を行わないであろうと述べた。

## 11. 為替センター閉鎖の可能性（5月2日付イラン労働通信）

来週国会にて公開審議が行われる本年〔ヒジュラ太陽暦1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕予算に関して、1米ドル=24,500リヤールを予算レートと決定した場合には、為替センター（予算レートと同等の為替を供給している）は閉鎖されることになる。為替センターが閉鎖されれば市場レートは高騰すると経済専門家は主張している。

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799